

# 音楽科

## 1 音楽を学ぶ意義

音楽は「音を楽しむ」と書きます。世界中をつなぐ文化を学べる教科です。音楽は、時には人の心を揺り動かし、音楽を通して、人と人との心が通じ合うことができます。時には言葉ではなく、音によってコミュニケーションを深めることができます。心のこもった音楽には「感動」を呼ぶエネルギーもあります。また、いろいろな場所や場面で音楽が使われ、常に身近なところに音楽はあります。

様々な音楽やその背景にある歴史に触れることによって「音楽を楽しむ心」「美しさやよさを感じ取る心」を養ってほしいと思います。また、たくさんの音楽を味わいながら、その良さを感じ取り、それを表現する力を身に付けて音楽を楽しんでほしいと思います。

## 2 授業について

### (1) 授業の準備を確実にしよう。

- ・音楽室に授業開始のチャイムが鳴る前に移動しましょう。
- ・教科書、ワークブック、筆記用具は常に準備しましょう。題材によっては、楽譜やアルトリコーダーなど、支持された準備物を忘れずに持ってきてきましょう。

### (2) 授業に集中しよう。

週1回(1年生は時期によって2回)の授業回数ですので、しっかりと集中してポイントを押さえて表現活動や鑑賞活動に取り組みましょう。一斉に説明を聞き、メモをたったり、練習をしたりと授業時間の中で多くの活動が求められます。説明を集中して聞き、移動をはじめ活動の切り替えを素早くして、無駄な時間を少なくするように心がけましょう。

### (3) 目標をしっかりとって授業に臨もう。

「こう演奏したい」「ここまでできるようにになりたい」という目標を持つことによって、その時間に自分が努力することが明確になります。また、うまくできないところが明らかになり、練習のポイントもはっきりとしてきて、技能面での上達にもつながります。積極的に取り組めば取り組んだだけ、自分自身を伸ばしていけるのです。「もっとこうしたい」「ここまででは頑張る」といった練り上げる心や根気強さを身に付けることにつながります。

友だちの良いところをどんどん見習い、技能の向上を目指していきましょう。

### (4) 協力し合ってよい音楽を作り上げよう。

学校で体験する表現活動は、主に集団で作り上げる表現活動です。級友と協力し合いながら、音楽を演奏する際に自分の思いや考えを級友に伝え合いながら、よりよい表現活動を目指しましょう。また、鑑賞活動でも、自分の気付いたこと発表したり、級友の気付いたことを聞いたりをしながら、幅広く音楽の良さを味わいましょう。

### 3 評価について

音楽科では、4つの観点で評価をします。

#### (1) 音楽への関心・意欲・態度

「音楽に興味をもち、意欲的に授業に取り組もうとしているか」を評価します。

- 授業の準備、教室への移動、活動への取組や態度、発表の様子、学習課題への取組などを見直してみましょう

【授業の取組・提出物等授業に取り組む態度全般から総合的に判断します。】

#### (2) 音楽の創意・工夫

「音楽のよさを感じ取り、豊かな表現を進んで工夫しているか」を評価します。

- 音楽の旋律や形式、音色（歌声）、歌詞の特徴などをとらえ、それらを音楽活動の中で創意工夫しながら表現活動や発表をすることが大切です。

【学習プリントへの記入・発表・演奏・期末考査などから総合的に判断します。】

#### (3) 表現の技能

「音楽を表現するための基礎的な技能が身に付いているか」を判断します。

- 学年によって、題材によって目標とされる技能があります。よく学習課題を理解して、その技能の習得に向けて活動に取り組むことが大切です。

【授業での表現活動の様子、実技テスト、期末考査などから総合的に判断します。】

#### (4) 鑑賞の能力

「音楽を進んで鑑賞し、そのよさや特徴をとらえ味わっているか」を評価します。

- 学習課題をよく理解して、楽器の音色、情景、時代背景、作曲者、楽曲の特徴など幅広く音楽をとらえていくようにすることが大切です。

【鑑賞時の発表内容や学習プリントへの記入内容、期末考査などから判断します。】

※期末考査を実施しますが、高得点だからと言って「4」や「5」の評定になるとは限りません。音楽は、知識だけを問われる教科ではありませんので、授業への取組・実技の様子を合わせて総合的に評価をします。

### 4 最後に

仲間と音を共有できることは素晴らしいことです。歌ったり、演奏したりする中から音楽の楽しさをたくさん味わってみましょう。音楽の種類はたくさんあります。まずはたくさん種類を知ることから自分自身を広げていき、その中から自分が好きな音楽を見出してみてください。また、日本の音楽や世界の音楽から、その背景にある歴史や文化を知ること、人の暮らしや思いを深めることもできます。今まで音楽を苦手だと思っていた人も、得意だと思っていた人も、新しい音楽との出会いを大切にしてほしいと願っています。